

# 自分でできること

になまま(埼玉県)

当初、このテーマで投稿する資格が私にはないと思いました。しかし、もし私の経験や考え方が少しでも何かの足しになるのならば、と思い書いてみる決意をしました。

私は関東在住で、震源地から離れていて大した実害もありませんでした。直後は、度重なる余震と、店頭から商品がなくなったり、計画停電などの不便さは味わったものの、被災者の比ではありませんでした。不思議なもので、震災後に家族の安否が確認できるや、本能なのでしょうが、何かをしなくてはという思いに駆られました。

実際、個人でできることなど限られてい

ました。ほんの少しの募金と、節電と、買い控え。市内にある避難所で救援物資を募集していると聞けば、希望に沿うようなものをかき集めては届けたりしました。

子どもも小さくて、被災地入りはできないけれども、もっと自分にできることはないのだろうかと考えている時、インターネットで被災地の子どものためにレススバッグを送る活動があることを知りました。

レススバッグが被災した子どものお腹を満たすでもなく、その子どもたちの受けた心身の傷を癒せるわけでもないけれど、自分の時間と労力を少しでもその子どもたちの為に分けてあげられる術が、その活動だと思いました。バッグを作れることに感謝し、時に、被災地の凄まじい状況に涙しながら作ることもありました。

寒く長い冬が過ぎ、暑く節電の夏も終わるころ、その活動の形態もレススバッグ

だけでなく、多種多様な手作りの物を仮設住宅にお住いの方々にお分けするとうものに変わっていきました。私もこの頃から、自作をしながら、これは被災地の方々の為だけでなく、いつか起こりうる首都直下型地震で被災するかもしれない自分の子や孫、子孫に宛てて作っているのだと思うようになりました。この度の震災のように、天災はいつどこで起こるかわかりません。情けは人の為ならずという言葉がありますが、もし、自分の子どもたちが同じような境遇に陥った時、このような支援を受けられたらいいだろうなと…。

この活動も、被災地のニーズにより、先日新たな物資の募集活動を休止しました。寂しいけれど、この活動を通じて、心優しい方たちが日本全国にたくさんいることがわかり、その方たちと一緒に活動できたことをとても誇りに思いました。

そして、今後もこの優しさの精神が途切れることなく、鎖のように長く、広く繋がっていくことを信じています。

これからも、できる形で被災地の支援をするのはもちろんですが、自分の身の周りの人達にも、自分にできることをできる範囲でしてあげられたらと思います。未来の子どもたちの為にも。

